

令和4年度中部近畿地方鉱山保安協議会中部地区部会議事概要

日 時 令和4年3月6日（月） 13時30分～15時30分

場 所 中部経済産業局総合庁舎2階大会議室

及びオンライン（Microsoft Teams 会議）によるハイブリッド開催

1. 議事

【報告事項】

（1）中央鉱山保安協議会（令和5年3月1日開催）について

①「特定施設に係る鉱害防止事業の実施に関する基本方針」に係る告示（案）について

②「第14次鉱業労働災害防止計画」に係る告示（案）について

③鉱山保安法施行規則等の改正について（衛生に関する通気のため必要な措置等）

④過去5年間における罹災者数の推移について

⑤鉱山・火薬類保安関連の令和5年度予算案の概要について

⑥宅地造成等規制法（盛土規制法）改正概要について

⑦鉱山保安法施行規則等の改正について（鉱物名称変更等）

（2）令和4年度中部近畿産業保安監督部における鉱山保安に係る取り組み等について

（3）令和5年度における鉱山保安に係る取り組みについて

（4）災害等情報（ホイールローダ転落による死亡災害）

（5）その他

【意見交換】

報告事項（4）災害等情報（ホイールローダ転落による死亡災害）

2. 議事概要

【報告事項】

事務局より各事項について報告した。議事は以下のとおり。

○中央鉱山保安協議会（令和5年3月1日開催）について（資料1）

（委員）

- ・中央資料3-1に関して、取り組みやすいものと取り組みにくいものとに分けて取り組まれるとのことであったが、取り組みやすいものとは目標達成に直結しやすいものとして理解してよいか。

（事務局）

- ・鉱山保安マネジメントシステムの自己点検チェックリストには二十項目あり、リスクアセスメントとマネジメントシステムの2つに大きく分かれており、詳しくは後ほど説明させていただく。

（委員）

- ・中央資料3-1に関して、今回、人材育成という人をどうマネジメントするかについて強調されているかと思うが、育成される人材が具備すべき能力やそれを具備するためのカリキュラム、どうあるべきかといったところまでブレイクダウンした階層性のある項目まで整理されているのか。

（事務局）

- ・後ほど回答させていただく。（会議後、これからの検討事項である旨をご説明。）

○令和４年度中部近畿産業保安監督部における鉱山保安に係る取り組み等について（資料２）

（質疑なし）

○令和５年度における鉱山保安に係る取り組みについて（資料３）

（委員）

- ・令和５年度における鉱山保安に係る取り組みについて、令和４年度に発生した事故を反映できている。
- ・事業者の中にも指導する立場の人がいると思うが、監督部との乖離があるとうまくいかないと思うので、委員からのコメントもお願いしたい。

（委員）

- ・私どもの鉱山では若年層が多くなっているところであるが、監督部と同じ認識を持っている。
- ・私どもの鉱山でも同じように出来るところがあると思うので、落とし込んで実施していきたい。

【意見交換】

意見交換の質疑応答は以下のとおり

○災害等情報（ホイールローダ転落による死亡災害）について（資料４）

（委員）

- ・私どもの鉱山でもベンチカットでの採掘を行っている。
- ・今回の事故の報告を受けた際には、転落のおそれのある箇所（土盛り）についてパトロールを実施し、土盛りが低いところの改善を実施した。

（委員）

- ・私どもの鉱山でも転落のおそれのある箇所（土盛り）の点検を実施した。
- ・今回の災害は、どういった作業を行っていて発生したのかが気になっている。
- ・私どもの鉱山では、鉱山道路の路面の整備作業ではバックしながら行う作業があり、転落のおそれのある箇所に土盛りがないと大変危険であるという認識でいる。

（事務局）

- ・今回の事故では明確な作業指示が出されておらず、バックしての作業であったことが推測されている。

（委員）

- ・ドライブレコーダが車両系鉱山機械についていれば作業状態が分かったかもしれないので、次につなげるためにも、ドライブレコーダの取り付けが今後は必要に思う。

（事務局）

- ・ドライブレコーダの取り付けなどは、１４次計画に含まれる新技術の活用として有効であると考えている。
- ・中小規模の鉱山では取り入れるのが難しいこともあるかもしれないが、１人作業時の作業内容を確認する手段として有効であると考えている。

（委員）

- ・鉱山道路での作業において、ホイールローダが立ち入る上での基準はあるのか。

（事務局）

- ・技術基準にて鉱山道路に関する基準が定められている。

(委員)

- ・それぞれの鉱山内だけでなく、鉱山の関係機関などで情報を共有できれば災害を減らすことが出来ると感じる。

○全体を通して

(委員)

- ・事故について、丁寧な原因分析などが示されているが、その情報はどのように伝達されているのか。

(事務局)

- ・鉱山の保安を統括する者に情報伝達等を行うための保安統括者会議を定期的
に開催している。また、メール配信、ホームページでの掲載、ツイッターを
用いて広く周知している。

(以上)